

KSKP

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニュースレター Vol.14

Threshold ～すれっしょんど～(出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュホールドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です

**神戸ダルク3周年記念フォーラム開催決定**

湿度も高く、非常に暑すぎる日々、皆様いかがお過ごしでしょうか？神戸ダルクでも、熱中症対策・予防のプログラムを行ったりしていますが、夏を満喫するために、なるべくクーラーの効いた室内ではなく、自然が感じられる場所で過ごすように心がけています。

薬物やアルコール依存症のリハビリ施設というのは、実際の回復支援以外でも、様々な問題に直面します。それを黙って仲間のためにサポートしてきた心暖かい先人たちがいるから私たちも背中を見ながら、自分たちの昔の姿と投影する仲間たちをサポートできています。普通に考えれば、もう一度人生をやり直そうという試みは非常に美しいものなのですが、どうやら、まだまだ理解されない社会が目の前に立ちはだかったりします。

しかし、私たちはそんな支援の中でも、私たちが助けられた最も大切なものを教えられています。理解されない依存症問題で、非難を浴びることも、偏見を与えられることもあります。最も辛いのは、公の場所から私たちが傍観されてしまう事です。しかし、そんな中でも、今神戸ダルクは開設以来一番仲間たちが楽しく、希望を抱き、うまくやっています。雰囲気がとてもいいのです。そこで私たちは、何が一番大切かを学びました。ダルクが何をするといいのか、心で感じました。そんな思いを抱きながら、11/23(土)に、初めてのフォーラムを開催することになりました。チラシを同封しています。私たちの回復の軌跡をぜひ応援しにきてください。お待ちしております。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

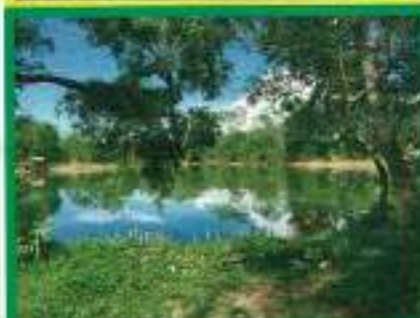
神戸ダルク**検索**

奇跡は起きる～チェンマイ HOC 治療共同体視察～

一般社団法人 神戸ダルクヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

昨年の治療共同体世界会議がタイのバンコクで行われた際にチェンマイの HoC(House of Compassion)の代表でもあるワンペン女史にお会いしたことで、今年の 6 月 17 日から弾丸の 4 日間で、チェンマイの治療共同体施設に滞在訪問してきました。

前にもスレッショルドで書いたこともあると思いますが、私はタイとフィリピンで研究調査をしていた頃に、タイにあるタンヤラックという国立の依存症センターに招かれることがあり、クライアントなどへの助言や講義などをする機会をいただいていた時期がありました。その時に、その心理士さんからある依存症の家族を紹介されました。なぜ、私に紹介してくれたかという、障害を持つ依存者のお母さんはマレーシア人でタイ育ちなのですが、お父さんが日本人ということでお母さんの相談に乗っていました。そのことで何度も話をし、日本にもお母さんが訪ねてきて相談されたりしていました。今から7年以上前のことだったと思います。アパリにその頃いた私は、日本に彼を招くべきかなどと懸念していました。というのも、当時のタイ政府は、国王のお母さんの意思により、依存症対策には国を持って取り組んでいました。ゴールドトラリアンクルの遺産の責任を取るためです。その取り組みは、あのジミーKがNAを米国で始めた1953年と同じ年からでした(その頃日本の取り組みはどうだったかというのは、恥ずかしくてここでは書けません)ですが、国でサポートできる期間というの期限があります。社会に戻らなければなりません。ですが、私が滞在していた頃の社会的サポート資源というのは皆無でした。エクスパットの資源はあるのですが、タイ人への資源はありませんでした。さらに障害を持っていると、親が抱えるしかありません。そんなことで、タイに行くたびに、お母さんと会って話を聞いてあげることくらいしかできませんでした。本人も、当時は暴力的な問題や、薬物が止まらない状況でした。私も面談しましたが、正直いうと「支援なしで生きていくのは無理だろう。」と考え、手が出せませんでした。そんなお母さんに、前回の治療共同体世界会議の際にもお会いして話をしました。その時に、今回の会議で発表している先生のところで現在お世話になっている



と紹介されたのが、ワンペン女史でした。非常に温かみのある「偉大なお母さん」という印象でした。そこで、その彼と会いたいということ、ワンペン女史が運営している治療共同体施設を訪問したいという思いもあり、そこで約束したものの、国内での活動も忙しく時間も取れませんでした。夜行飛行機往復という格安チケットを手に入れたので弾丸でチェンマイに行ってきました。私は以前にも、チェンマイで高級治療共同体施設を訪問滞在したこともあり、それと合わせて、来年2月の自助グループのアジア会議がチェンマイということもあり、本当に国内出張のような軽装で、向かいました。年齢には勝てず、往復の夜行飛行機はしんどかったです。実際に施設に到着し、私がこれまで研修で滞在してきたデイトップやアミティCTRのように莫大な広さの敷地で、真ん中にある湖が、水は綺麗ではないのですが、スピリットに何か木霊するような場所で私の滞在させてもらう場所はその湖のほとりでした。毎朝の瞑想が心地よかったです。さて、実際には、米国の治療共同体のようなラグジュアリーな空間ではなく、どちらかといえば、私が過ごしたフィリピンの施設を思わせるような空間でした。ですが、正直、私がこれまで見てきた治療共同体施設の中で一番私が目指したいというか、求めていた空間でした。利用している人たちすべてが自分の役割をこなし、支え合い、楽しそうであり、規律というものに縛られるのではなく、愛された感覚でつながっているという感覚を、私の心の真ん中で感じたからです。それは無意識で感じる感覚です。段階制というよりもデパートメント制が非常によく機能していました。ゆるい感覚からか、仲間たちはみんな優しい顔をして

いたし、冗談も飛び交っていました。が、秩序や礼儀は守られていました。部署を運営するのは、当然仲間たちです。仲間たちの考えで、私のサポートもしてくれます。それ以上に、自然の真ん中で生活していることが効果的なのでしょう。最近私たちも、社会とかけ離れた田舎の空間で過ごすことがたくさんありました。そんな中でいつも思うのが、普段施設で苦しい顔をして、寝たまま動けない仲間が、自分から動き始めたりします。そのことを教えてもらったのも HoC です。また、ワンペン女史が、デイトップでの生活をしてきた経験もあり、私の親友のフレディの話などで盛り上がり、デイトップでの問題点や、タイでの文化にあわせて作り上げた空間であることから、話が夜遅くまでつきませんでした。滞在する中で、仲間たち 50 名の 1~2 名しか英語は話せないのですが、みんな優しく、私もウェルカムされた感覚で、自助グループでもこの感覚になったら、また来よう！ってなるなど再確認もしました。タイは仏教の国です。瞑想や祈りも日常のプログラムには盛り込まれています。私は、夜寝る前の瞑想に毎回参加させてもらいました。仲間の一人が大きなミーティングルームの真ん中で、お経を唱え始めると、全員がそのお経に続き唱え始めました。50 人すべてが、全く不協和音なくハモリながら唱え始めました。20 分ほど続きます。私はこの施設での滞在で一番に偉大な力を感じました。それに、こんなに美しいハーモニーは聞いたことはありません。私たちが毎朝ミーティングで読み合わせするリーフレットでこんなことは感じません。ですが、彼らは自分の回復を信じて魂を込めて夜の瞑想の時間のプログラムをしていることが心に響き渡りました。本当に今思い出しても鳥肌が立ちます。そんなことも含めて、私はここでの経験をどこかで発表するというのではなく、私は私たちの回復支援の中に実際に取り入れていくことを、私一人ではなく、仲間たちと一緒に考えながら作り上げていこうという決心が出来ました。細かな部分は、その中で伝えていけたらと思います。さて、私が HoC を訪問していただいたギフトがあります。訪問の目的である、ずっと関わってきたお母さんの息子との再会でした。彼は、障害を持っていながらも、片言ですが4ヶ国語話せます。私は奇跡というギフトをここでいただきました。実は、私が正直、諦めていた彼の回復だったのですが、彼はそこで、仲間たちの社会復帰のために英語を教えたりしながらスタッフをしていたのです。私があった時は、薬が全く止まっていなかった状態で、全く別人になっていました、私の目は節穴か？と自分を疑いました。そんな中で、彼やワンペン女史と、最終日はおしゃべりをして終わったのですが、彼が変わったことについて僕は彼にたくさん質問しました。私が実は無償で彼の家族と関わってきたことには、実は思い入れがありました。親子の関係が私から見ても全く上手く行っていなかったことから、自分とリンクしていたのだと思います。彼は僕に言いました「私がここでこんなに元気になったのは、ワンペン先生が、僕を普通に扱って、家族のように大切にしてくれたからです。ここで、生まれて初めて愛された感覚になって自分を許せたんです」という言葉をもらった時、私は、この数年間、何の利益もなく彼に関わってきたことに、意味があったことを教えてもらえました。そして最後に車に乗り込む時に彼が自分の部署の仕事を済ませ、僕のところに走ってきて、英語ではなく日本語で「梅田さん、ずっとずっと僕のことを信じてきてくれてありがとう。僕も梅田さんを信じていた。初めて出会った時からきっと助けてくれると思ってた」と言ってくれました。一番最初は、国立依存症センターに自助グループや地域資源について教えて欲しいと招かれたことから始まったつながり。私の信じる気持ちに対して強く揺るぎないものを与えてもらった気がします。また、仲間の散骨のために遺骨を持っていたのですが、その HoC の湖に散骨しました。私は最近、仲間の支援で迷った時、ワンペン女史のことを思い出します。神戸ダルクヴィレッジ 始動開始です。



若狭での体験 ニッシン

代表の講演もあり、福井県の若狭まで代表の梅田さん家族と何人かの仲間で、3泊4日で泊まりに行くことになりました。宿泊先は海が一望でき、蜻蛉が多く飛んでいる丘の上に建つバンガローでした。そこでご飯を作って食べたり、食器を洗った後に夜空を眺めたり、川の字でみんなと寝たりして過ごしました。日中は観光施設で遊んだり、海水浴に行ったり、風の強い中、釣りに行きました。

その中で感じたことが2つあります。一つは、家族という意識です。代表のお子さんと遊んだり、机を囲んでご飯を食べている中で、不思議な感覚というか、一体性を感じたからです。もう一つは童心に戻るということです。私自身、素の自分がどういったものかがわからない部分もあるのですが、海で仲間と遊んでいる姿を見た仲間から「すごいいい笑顔だったよ!」と声をかけられ、本当に心から楽しんでいただけたのだと感じたからです。

薬物使用の離脱症状なのか感情の起伏や頭痛で悩んでいます。今回若狭で体験して感じたことは回復していく上でも必要なことだと思っています。本当に少しずつ少しずつですが回復していければと思います。



大自然が私に与えてくれた トシ

こんにちは薬物依存症のトシです。Vol12のニュースレターで書かせていただきましたが、私は6年前の2013年に3回目の刑務所を出所して、奈良にある依存症のリハビリ施設につながった後に、大阪で一人暮らしをしている時に4年近いクリーンがあるにも関わらず、リラブス(再使用)してしまい2018年6月に覚せい剤使用で逮捕され、今年の2月6日に神戸刑務所を仮釈放で出所し、現在神戸ダルクにお世話になり、早いもので、先日の8月6日に、おかげさまで6ヶ月を迎えることができました。その間、神戸ダルクでは、ヨガやゴルフのプログラムの他に、九州湯布院のギャザリングや、奈良県十津川村の日本一の吊橋の下でのキャンプ、和歌山の無人島でのキャンプ、鳥取ダルクと合同で2泊3日のフェロシップ etc... 本当に楽しい経験をたくさんさせていただきました。

その中でも4月に、代表のウメさんに誘ってもらい、連れて行ってもらった鳥取県智頭町でのスウェットロッジというアメリカンインディアン発汗小屋で、チンチンに焼けた岩に水をかけてサウナ状態にして薬草の香気を含んだ蒸気によって身を清め、汗をかくことで、心と体の健康を回復させて魂の浄化をする儀式を体験させてもらったのですが、そのスウェットロッジを体験できた場所に隣接した土地に、未完成のログハウスがあり、そのログハウスが借りられることを知ったウメさんは、これをリノベーションして神戸ダルクのリトリートのための別荘として、森に囲まれ小川の流れる大自然の中で、仲間がゆっくりとした時間を過ごせるようにと、6月末に一週間かけて、まずは手始めに借主さんの不要な荷物が山のようにあり、その搬出と処分や、また長い間使っていないこともあって、埃だらけだったので、掃除をしたのですが、やり始める前は、これは相当大変やなあと思ったのですが、やり始めると薬物依存症特有の多動のスイッチが入って(笑)、もう一人の私以上の多動の仲間と、少し動きの遅い仲間の尻を叩きながら、3人でやり終えた時の達成感は半端ないものでした。

これから壁を貼ったり、ウッドデッキを張り替えたりとまだまだ手を入れないといけないところがたくさんあるので、これからが大変なのですが、神戸ダルクの仲間たちみんなで力を合わせてログハウスのリノベーションを完了させて、早く大自然の中でゆっくりとした時間を仲間と一緒に過ごせることを楽しみにしています。



鳥取ダルク・神戸ダルク合同フェローシップ

ヒロ

僕は今年の3月に神戸ダルクに入寮し、自分の回復について日常を通して学ばせてもらっています。薬物依存症のヒロと言います。神戸ダルクのプログラムで先日鳥取ダルクへ2泊3日の合同フェローシップに参加しました。

神戸から車で約2時間の道のりで行く道中、家族で旅行に出かけるような気持ちは、心地よい気分になり、一方でまだ会ったことのない人たちに会うことでの不安もあり緊張もしました。仲間の中には、道中地元を通ることから故郷に思いを馳せ感慨深く感じている仲間の姿を見て、周りの仲間が言葉をかけ、笑いに変える、そんな場面もあり、一人一人が道中にも楽しいひと時を感じていたと思います。

兵庫を過ぎ、岡山を越え、いざ鳥取へ！ 目的地に近づくにつれ、見覚えのある風景が僕の思い出とリンクして、「この浦富海岸キタキタ！」と仲間にその話をするのですが、うまく話せず、しどろもどろの説明でした。というのも、僕が以前働いていた職場の社長と来た思い出の場所でその時の僕は使い続けてきた薬を自力で絶っていた状態で、離脱症状真っ只中で、眠りっぱなしの起きれば食いつぱなしで、今思うと僕に少しでも気晴らしには...って、良い方向へ手を差し伸べてくれていた社長の思いに申し訳ない気持ちが蘇りました。そんなことを感じながら目的地へ。

鳥取ダルクでの3日間、初日はオリエンテーションで鳥取ダルクのルールの説明、その後お互いの自己紹介があり、以前NAでお会いしている仲間がいたり、ほっとする瞬間でした。オリエンテーションの後、少し離れた海水浴場に車で移動し、道すがら海岸線の景色が心に止まりました。神戸には無い海の碧さと、自然が作り出した岩場、そんな自然の景色に感動を覚えました。海辺に降りていくと、小さな入江が複数あって、そんなに多く無い海水浴客でプライベートビーチのようで、岩場から海にジャンプする仲間や、海中の岩場で鳥取の仲間が神戸の仲間へサザエやアワビを食べさせてあげたいとの思いで取ってくれました。感謝です。夕食の後、キャンプファイヤーミーティングで普段とは違った空間で、鳥取の仲間と燃える炎を見つめながら仲間の体験談に耳を傾けました。そんな時間の流れの中、少しずつ緊張も和らいでいきました。

2日目はBBQで、美味しいカレーやお肉、前日の海水浴で取れたサザエなどやスイカをいただきました。一つ一つの食材、自然、一緒に食事をした仲間、そんなシチュエーション。鳥取に来るまでに感じていた、まだあったことない人たち、まだ行ったことのない地、そんな不安を経験すること、ともに時を重ね交われることで自然と和らぐ感じがします。BBQの後は、海水浴を存分に楽しみました。海の水面にぽっかり浮かび、身を委ねると自然と一体になったような気分に浸りました。あまりにも委ね過ぎて、波に揺られ過ぎたのか、寮に帰ると船酔いしたようにめまいがして気持ち悪かったです(笑)

3日目は昼からのミーティングまでフリータイムで、海岸線を歩きました。海岸で最後の海水浴を楽しみました。この3日間、ゆっくりと楽しい時間を過ごすことができ、良い思い出が一つ増えました。滞在中、食事の用意から洗濯まで、すべて準備や買い出ししていただいた鳥取ダルクの仲間へ心より感謝です。ありがとうございました。

薬を使っていた頃には感じられない体感がこの経験を通して感じられたことに感謝です。



北九州ステップセミナーに参加して タカ

こんにちは、依存症のタカです。神戸ダルクにつながり半年が過ぎ早いものです。6月末に北九州で行われた「12ステップセミナー」に参加してきました。

九州といえば、自分の地元でもあり福岡へ戻るのは6年ぶりかなと思います。自分でもよくわからなくなりました。最初は地元へ戻るのには抵抗があり、昔のことを思い出したり、両親に会いたいとも思ったし、心がざわつきしました。両親に対しての感謝の気持ち、焦ってしまう埋め合わせ、できるとすればしっかりとした回復をすること、12ステップを学んで、2つのものを見分ける賢さ、生き方を変えることが一番大事だとも思い参加させてもらいました。神戸からフェリーで片道10時間くらいかかり、少し長いフェリーの時間、以前は、自分は5年のクリーンがあり、覚せい剤のリラプスをして神戸ダルクにつながりました。リラプスする前は、群馬ダルクにいました。

以前北海道のコンベンションにフェリーで行った時のことを思い出し、地元のことを思い出し、地元のことはあまり考えませんでした。ブーさん、ショーンさん、西さん、群馬の仲間と1日でも早く笑って会える日が来ればと思います。

セミナーの会場に着くと、久しぶりに会う仲間もたくさんいて、すごくポジティブな気持ちになり、12ステップについての色々な仲間の話を聞きました。仲間の話に共感する部分もあり、心の変化、行動の変化、自分自身の問題の乗り越え方、仲間の大事さ、うまく薬物から逃げる方法、生き方を変えれば、幸せ、楽しさ、賢さが手に入るという希望をもらいました。罪を犯す、人に迷惑をかけるということは絶対にやってはいけません。ですが、このようなことは思っていないのかもしれませんが、自分はヤク中で良かったと今は思います。いろんな自分が発見できています。もっともっと12ステップを学んでいき、そして腹の底まで落として楽に生きていければと思います。正直さ、やる気、心を開く、の三本柱をしっかりと。ウメさん、そして神戸ダルクの仲間に出会えて本当に良かった。毎日がすごく楽しいです。12ステップセミナーありがとうございました。父母兄弟に感謝

「あなたの声を届ける」当事者向け 体験談スピーチの学習会

一般の聴衆の前で、依存症者が「体験談スピーチ」をすることで、知らないうちに傷ついてしまうという体験をしないために、自分の体験談を話すことについての学習会を開催します。

興味があり、日程と場所が合えば、是非ご参加ください。全国4カ所で行います。毎回30名と限られていますので、詳しくは078-224-4244(神戸ダルク)までお問い合わせください。神戸ダルクのメールアドレスでもOKです。

◆学習会の会場・アクセス・日時(ご希望の日程を1つお選びください)

神戸市立総合福祉センター 9月14日(土) 10:30-16:30

JR神戸駅徒歩10分・地下鉄大倉山駅徒歩3分

沖縄県総合福祉センター 10月19日(土) 10:10受付開始 10:30~16:30

那覇市首里石嶺町4丁目373-1

那覇バス「石嶺」より徒歩5分

「総合福祉センター」より徒歩1分

東海道かわさき宿交流館 11月9日(土)

川崎市川崎区本町1丁目8番地4

JR川崎駅より徒歩10分

京急川崎駅より徒歩約6分

東京都障害者福祉会館 11月30日(土)

港区芝五丁目-18-2

JR田町駅より徒歩5分

都営地下鉄三田駅より徒歩1分



活動報告

2019 年 6 月 21 日～
 プレイス東京さん訪問
 JaNP+さん訪問
 高松刑務所メッセージ
 神戸保護観察所引受人会メッセージ
 鳥取ログハウス改修工事
 鳥取あけびの家自然体験
 智頭森林セラピーロード散策
 NA 北九州ステップセミナー参加

7 月

布引の滝 BBQ
 高浜町5校連続学校講演
 高浜町キャンプ体験
 スウェットロッジ体験
 NA カレーザメッセージ参加
 神戸市鈴蘭台高校講演
 リングリング講演
 全日本社会貢献団体機構助成金贈呈式参加
 NA ヨーロッパコンベンション参加
 NA ヨーロッパ代表者会議見学ブース出展
 明石更生支援フェア
 ギャンブル等・アルコール依存症地域生活支援指導者養成研修参加 岡山
 薬物依存症地域生活支援指導者養成研修参加 東京
 「あなたの声を届ける」研修
 鳥取ダルク合同フェローシップ

8 月

虹色ダイバーシティさん訪問
 東三河家族会メッセージ
 ナラノンメッセージ 大阪
 沖縄ダルクインタビュー
 リカバリーサポートネットワーク訪問
 ワーカーズホーム訪問
 カーサ デルソル ギャンブル依存症施設訪問
 沖縄ダルク家族会メッセージ
 H&I ワークショップ 沖縄 参加
 中央区実習生研修見学
 松山刑務所メッセージ
 木口福祉財団訪問
 神戸市議会懇談会

アゲインファーム ボランティア 月2回
 垂水病院メッセージ 毎月第3火曜日
 垂水病院スマーブ 毎週金曜日
 神戸保護観察所スマーブ講師 毎月1回
 神戸ダルク家族会 毎月第4日曜日
 明石保健所家族相談 毎月1回

近況報告・活動予定

フォーラムの会場が決定し、ホッと一安心したのもつかの間、その準備が具体的になってきました。本当に太鼓も披露できるのだろうか？仲間たちは喜んでくれるのだろうか？などなど不安も正直頭をよぎります。障害を持つ仲間たちの今後の居場所事業に大きな壁が立ちました。その壁は、乗り越えるものだと思っていましたが、「仲間たちの居場所」その一番大事なものを守るためにはどうしたら良いのか？仲間が教えてくれています。フォーラムと同時に各種啓発フォーラムも年度末に向けて計画が進んでいます。と同時に、リカバリーファーム（煙）の事業に LDSS JAPAN さんの助成がつけました。「100%リサイクル農法」「短リトリート」の実現のため、日々、仲間たちで研究作業しています。美味しい野菜で暖かい食卓を目指します。

神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」 年間購読のお願い

この広報誌「スレッシュホールド」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、漸く第三種郵便物の取得ができました。年間購読費は年6回発行で2000円になります。お申し込みはFAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニューズレターを置いていただける場合はご連絡ください。たくさんの方に読んでいただけるように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。

兵庫県の薬物依存症者を助ける活動をご支援ください。
個人会員は1口 3000円（ニューズレター定期購読料を含む）からになります。刑務所内の方々との文通による支援のための切手代などに使わせていただきます。

ご連絡をお待ちしています。

領収書希望の方は一言ご記載ください

神戸ダルク ヴィレッジ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail: kobe.darc@gmail.com

電話相談 来所による面談 メール相談 相談の内容に関する秘密は厳守します

逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘留所・留置所への面会、手紙などによる逮捕者及び保釈中の方への裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

★月曜～金曜 10:00～17:00

メールは24時間OK。 kobe.darc@gmail.com

神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々に支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも暖かく見守ってください。

ご献金

坪山かづ子様 間明子様 小林るみ子様 北園笑子様 山村紀久子様 井手照光様 上田裕司様 坂野剛崇様
青山曉様 大阪Ⅱソントクラブ 会長 内藤恵子様 高井省三様 猪木より子様 新田正彦様

ご献品

富田安世様 遠藤恭子様 播磨社会復帰促進センター様 神戸保護観察所 中野剛様 姫路薬師寮 国吉高虎様
(令和元年6月11日～令和元年8月12日到着分・順不同 ※購読料・支援会員費の方を含む)

献金・献品をお願いいたします。

いつもご支援いただき誠に有難うございます。毎回のお願いで本当に心苦しく思いますが、運営維持のためのご寄付及び、ご家庭で余っている日用品の献品をお願いいたします。

神戸ダルクでは、仲間の居場所としての寮・グループホームなどの設置に奮闘しています。そこで使うような備品がなかなか揃いません。ご家庭で余っている日用品や家電製品などもありましたら、ご連絡ください。

また、ご家庭で余っている食料品(米、野菜、乾物、味噌、醤油など)から洗濯洗剤やシャンプー、石鹸、などの日用品などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。グローブ・自転車などもございましたら是非譲ってください。よろしくお願いいたします。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シヤ) コウベダルクヴィレッジ

店番 〇九九 0275937

献品の送り先住所 651-0068 神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

編集後記

近年では、野菜や果物などはスーパーで一年中、いつでもどこでも手に入ります。なので、「季節の野菜」などという感覚は薄れてしまうもので、知らない間に便利になったものの、大切な感覚を必要としなくなっていく時代に生きているのかもしれない。川で冷やしたスイカを、みんなでかぶりつきながらそんなことを思いました。神戸ダルクで畑を始めて、季節の野菜の感覚を思い出しました。これから秋野菜、冬の野菜を植える時期がきます。フォーラムに向けて、太鼓の練習にも火が入りました。この感覚、すごく好きです。ダルクは、大切なものを思い出していく場所でもあるような気がします。

神戸ダルク ニューズレター Threshold (出発点) Vol.14
編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 梅田靖規
印刷 プリントバック
〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F
TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741
e-mail kobe.darc@gmail.com
www.kobedarc.org
価格 1部100円 年会費2000円
(購読料は年会費に入ります)
発行人 関西障害者定期刊行物協会
〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル4階